

福岡市水道水源かん養事業基金 第32回運営委員会議事録

- 1 開催日時 令和7年7月3日(木) 13時30分～14時30分
- 2 開催場所 水道局本館4階局議室
- 3 委員数 8名
- 4 出席者 8名
- 5 議事
 - I 事業報告について
 - II 令和6年度決算について
 - III 令和7年度予算について

○基金概要について 事務局説明

○議事 I 事業報告について

○議事 II 令和6年度決算について 事務局説明

○議事 III 令和7年度予算について 事務局説明

【質問・意見】

委員： 予算について、今年度関連収入の部分で500万ほど増え、結果として基金の取り崩しが少なくなっているが、500万円の増額しているのはなぜか。

事務局： 昨年度、木材の売却費の予算が約1,800万円の見込みだったところ、約2,800万円と高く売れた。背景として、曲淵の木材が定期的な森林整備をしていることもあり質が良かったと伺っている。令和7年度については、木材の売却益として約2,760万円、補助金としては約1,000万円を見込んでいる。

委員： ふくおかの水源の森サポーター制度について、J-クレジットに登録することはできるのか。

事務局： 植樹による地球温暖化防止など、社会や環境に貢献しているものを示すものとして、広葉樹の苗木が生涯で吸収するCO₂の量を算定した認定書の進呈をするが、国が認定するカーボンクレジットには使えない。

委員： 100年後の森のイメージを、次世代を担う子ども達に伝えるようにするのは難しいため、10年、30年、50年後の姿など中長期的なイメージができるような目標が必要ではないか。また、その目標を実現するために、サポーター制度を始めるのか。

事務局： 今年度に整備計画の改定を行う予定であり、現時点では、整備計画の準備段階だが、100年後の理想の姿を描きつつ、進捗についてはホームページ等で報告していく形で進めたい。なお、ふくおかの水源の森サポーター制度については、水源の森づくりに賛同して頂ける企業等から植樹サポーターとして広葉樹の苗木の協賛金を頂き、水源かん養林における植樹や育林に活用する取り組みを行う制度ですので、整備計画に影響するものではございません。

委 員： 森林整備について、10年後20年後30年後でここまで到達し、100年後にこの姿にするというわかりやすい計画は立てにくいので、100年後の姿は見据えつつ、10年ごとに計画を見直していく方法がいいと思う。

事務局： 今年度作成した100年後の広葉樹林というようなビジョンやイメージを、市民の皆様や子供たちに、遠くの未来ではこうなるために、今、何か自分たちにできることはないか等、地道に伝えるような取り組みを考えている。

委 員： 市民との協働の助成事業が、活用団体が少ないというのは課題だと感じる。一般的に活動費の中の事業部門の経費のみ、さらに3分の2ないし2分の1だけの助成となっており、また、福岡市の水源地域での交流事業というように絞られているため、使途や対象を広げるなどの見直しを検討してほしい。

委 員： 水源地域の現状としては、いろんな事業をするにしても、高齢化が進んでいるため、若い人との交流が難しくなっている。

委 員： 双方に人手や労力など手間がかかる交流にも価値があったと思うが、地元側に負担のない関わり方など、交流にも様々な形がある。受け入れ側に負担が少ない事業を検討していくといいと思う。

事務局： いただいたご意見などを参考に、本基金を有効に活用して事業に取り組んでいきたい。